

① 経済 economy

活力ある経済の実現に向けて

深沢地域のまちづくりと経済活性化

新駅開業を契機にした地域の再生 村岡新駅の開業に向け、渋滞緩和に向けた交通インフラ整備も含め、神奈川県や藤沢市と連携したまちづくりを推進します。



市役所移転と跡地活用の在り方

移転の合理性と対話 現市役所の防災面、老朽化、勤務環境、用地規模、新駅開業時期（32年予定）等を総合的に勘案、深沢移転には一定の合理性があると考えます。しかし、市民の理解と納得感が最重要で、市として明確なビジョンや安全性、財務健全性を提示・説明を尽くす事が必須です。現市役所跡地は市の課題解決に貢献し、且つ市民が誇りを感じられる場所として再興する必要があります。

質の高い観光による持続的な経済効果

滞在型観光への転換 禅や伝統文化にふれる滞在型体験を通じて消費額を高め、最終的には「住みたい」と思えるまちを目指します。そのための更なる産学官民連携のうえ、インフラ・宿泊環境等の整備も実施します。



③ 社会 society

安心・快適な暮らしと観光の両立を

地域で支え合い、共に育てるまちへ

自治会・NPO・若者・行政との「共創型まちづくり」推進 自治会の基盤力とNPOの柔軟性を掛け合わせたマッチング支援により、年に1～2件でも協働が生まれる地域を目指します。また進学・就職にも活かせる「地域志民証明書」によって活動の見える化を図り、若者の地域参加を促進。多世代が協力する地域づくりを応援します。



自治会と行政によるワーキンググループの設置 定期的な意見交換の場を設け、地域の声が政策に反映される仕組みをつくります。

地域を越えて学び合う「自治会ネットかまくら（仮称）」の創設 旧鎌倉・大船・腰越・深沢・玉縄などの自治会がつながり、知恵と実践を共有。地域全体の底上げを図ります。

安心して暮らせる医療体制へ

「未病」対策で健康寿命の延伸を 医療機関や地域と連携し、健康診断や予防医療の充実を図ります。高齢者も若者も子どもも、元気に暮らし続けられる体制を整えてまいります。



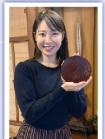
共創、そして防災・医療、その他に交通・防犯。
まちの力をつなぎ、安心と快適さが共にある鎌倉を

② 環境・文化 environment・culture

自然と文化を守り活かす

持続可能な鎌倉へ

- フェアトレード認定の推進や、神奈川県・横浜市・逗子市・三浦市・葉山町と連携した藻場再生（ブルーカーボン）など、自然環境を守る取組を緩めることなく、市民と官民学の協力で地域と世界をつなぐ「持続可能なまちづくり」を進めていきます。
- 鎌倉文学館など既存文化館や学校と連携し、地元に根ざした文学・歴史・芸術・伝統文化を広く発信。子どもたちや市民が鎌倉らしい文化を体感し、誇りを持てる機会をより充実させていきます。



鎌倉の未来に誇りと学びを。市民が主役の「学びの都市連携」へ

2025年、鎌倉は「東アジア文化都市」として、日本・中国・韓国の文化芸術交流を担う重要な年を迎えます。この機会を一過性で終わらせず、未来へつながる鎌倉らしい国際交流の形を築いていきます。



- フランス・ニース市や山口県萩市など国内外の友好都市との交流を活かし、市民が多様な文化や価値観にふれ、誇りと学びを育む機会を継続的につくっていきます。
- 日本初の平和都市宣言の理念を生かし、若者や地域住民とともに、国際情勢や戦争・平和について学び語り継ぐ取組を進めています。



災害に強い、命を守るまちへ

地域防災福祉コミュニティを実効性ある体制に再構築 自治会・消防・NPO・事業者などが継続的に連携し、学校と協力した防災教育・合同訓練を実施できる「本当に機能する体制」へと見直してまいります。



国際基準「スフィア基準」に基づく避難所整備 避難所の衛生・安全・プライバシーを守るスフィア基準を導入し、女性や高齢者、ペットや子どもも連れの方などにも考慮した体制と観光客にも対応できる多言語案内体制の再確認をします。



防災DXの推進で未来型防災都市へ ドローン・衛星技術などの先端技術を活用し、県や他都市間、民間・大学との連携で災害状況を迅速に把握可能な未来志向の防災モデルを検討します。



観光と生活が共に心地よいまちへ

歩行者・自転車にやさしい道路整備 通学・通勤・観光時にも安全に移動できるよう、歩行者と自転車の通行空間の確保を推進します。



二次交通の整備で移動の自由を支える 予約制駐車場整備や交通量制限、市民優先の公共交通機関利用の検討を進めます。

日常の安全を守る防犯対策

空き巣や通学路の安全対策を強化 夜道や通学路の不安を軽減するため、防犯カメラの設置支援を進めます。

